

## 韓国のペンテコステ派

キム・アンドリユー・ユンギ

——シャーマニズムと韓国キリスト教の再形成——

大韓民国（以下「韓国」）は、今日、世界でもっとも活気のある社会の一つである。一八八四年に伝わったプロテスタントは韓国第二の宗教であり、四千九百万人の国民の約二割にあたるおよそ九百万人の信者がいる（図一参照）。プロテスタントの成長は韓国が著しい近代化を遂げた一九六〇年代初頭から一九八〇年代末にかけて特に顕著であった。一九六〇年代初頭には韓国人プロテスタントは百万人にも届いていなかったが、それ以降、プロテスタント信者の数は他のどの国よりも急速に増加し、十年ごとにほぼ倍増した。

注目すべきなのは、このようなキリスト教の成功がたった一世紀程度で達成され、土着宗教と世界宗教がかつて支配的であった（現在でもある程度支配的である）韓国中に広まったことである。特筆すべ

図1 韓国の宗教人口（単位千人、括弧内は全人口中の割合）

	1985	1995	2005
仏教	8,059 (19.9)	10,321 (23.2)	10,726 (22.8)
プロテスタント	6,489 (16.1)	8,760 (19.7)	8,616 (18.3)
カトリック	1,865 (4.6)	2,951 (6.6)	5,146 (10.9)
儒教	483 (1.2)	211 (0.5)	105 (0.2)
円仏教	92 (0.2)	87 (0.2)	130 (0.3)
それ以外の宗教	212 (0.6)	268 (0.6)	247 (0.5)
非宗教信者	23,216 (57.4)	21,953 (49.3)	21,865 (46.9)

出典：National Statistical Office (1987, 1997, 2006).

この新しい宗教に改宗しなかった。一九四九年の共産主義政権の成立までは信教の自由があった中国においても、キリスト教はほとんど上手くいかなかったのである。

韓国プロテスタントの盛況ぶりは、世界でもっとも大規模な50の教会のうち30もの教会が、ソウル市とその近郊にあることから分かる (Freston, 二〇〇一年、六二頁)。その中には、世界最大の信者数を誇り、2011年現在の信者数が百万人で、世界最大のメソヂェイスト派、バプティスト派、長老派の信者を有するとされるヨイド・フルゴスペル・チャーチが含まれる。今や韓国は他の国に比べて多くの宣教師を

きもう一つの事実は、韓国が、フィリピンを除く全アジアにおいて、キリスト教を大多数が受け入れた唯一の国だということである。キリスト教徒はアジアのどの国にも見られるが、もっとも劇的で社会的にも重要なプロテスタントの拡大が見られたのが韓国であった。また、韓国におけるキリスト教の成功は、韓国ときわめてよく似た社会組織の仕組みを持ち、伝統文化や実践を共有する隣国である日本でのキリスト教の失敗ときわめて対照的である。日本では、人口（一億三千万人）のうちわずか0.5%に過ぎない約六十万人以上が、

海外に送り出してもいる。2008年末時点で世界の宣教師の数は四万六千名であったが、そのうち韓国は一六八カ国一万九四一三名の海外宣教師を送り出しており、その数はアメリカ合衆国に次いで多かった（Korea World Missions Association, 2009年）。

韓国には百七十以上の教派、六万以上の教会がある。信者数で最大の教派は長老派（三三％）で、メソヂイスト（二二％）、ホーリネス（一六％）、バプティスト（一一％）、フルゴスベル（八％）が続く。プロテスタント教会の総数の約50％は単立の教会である。韓国のプロテスタントで興味深いのは、プロテスタント信者の大多数が表向きは主流派である非ペンテコステ派に属している一方で、彼らの宗教的な傾向は福音派であるペンテコステ派キリスト教に傾いているということである。韓国の多くの教会はペンテコステ派の信仰スタイルに近づきつつあり、信仰治療を強調し、聖霊を受け、礼拝中に異言（恍惚状態<sup>ecstacy/utterance</sup>）で発せられる言葉）を語り、感情的な表現をするのだが、事実、これらはすべてシャーマニズムと類似性を持っている。本稿の問いは、韓国プロテスタントのペンテコステ化をどのような要因によって説明できるのか、韓国でペンテコステ派を超宗派的、超教会的宗教にしたものは何か、である。本稿では、キリスト教の中でもペンテコステ派の形態が韓国人の宗教的な想像力と傾向を形成した伝統宗教であるシャーマニズムと多くの接点をもつため、韓国人キリスト教徒の多くに広く普及したことを論じる。さらに、こうした親和性こそがプロテスタント・キリスト教が韓国において成功した重要な理由の一つであったことを論じる。以下では、まずペンテコステ派の信仰に関して述べ、続いて韓国のシャーマニズムにおいて核となる信仰と実践に関する調査について記した後、それらがどのように韓国人の宗教的世界観の中核を構成し、またキリスト教が自らの魅力をアピールするために、どのようにシャーマ

ニズムの要素を取り込んだのかについて詳しく述べてゆく。そして、鍵となるペンテコステ派の信仰と実践、すなわち信仰治療や奇跡を求める祈り、異言、きわめて感情的な礼拝形態を検討し、それらがどのように韓国のシャーマニズムと対応しているのかを検討する。結論として本稿では、こうした土着宗教とペンテコステ派との類似性が韓国でのプロテスタントイザムの急速な成長の一因となっていることを示す。

### ペンテコステ派―超自然的な賜物への信仰

ペンテコステ派とは、神が初代教会で使徒や他の人々に授けた奇跡的な賜物（ギリシア語の *charismata*）はまだ終わっておらず、現代を生きるキリスト教徒にも実践されているという信仰によるものである。このように奇跡的なカリスマや賜物の継続が強調されることから、ペンテコステ派はしばしばカリスマ運動とも呼ばれる。より具体的に言えば、新約聖書に次の二つのタイプの賜物が記されている。一つは信仰、希望、寛容といった「日常的な賜物」であり、すべての時代の信仰者に与えられる。もう一つは対照的に「非日常的な賜物」であり、特別な場合にのみ与えられる。これは、与えられた者が癒しや悪魔祓い、異言による語り、神からの直接の啓示などといった超自然的な業を実践したり経験したりすることを可能にする超自然的な賜物である（Cox, 一九九五年; Stalsett, 二〇〇六年; Anderson, 二〇〇四年; Blumhofer, 一九九三年; Syran, 一九九七年、を参照）。ペンテコステ派と呼ばれるのは、彼らがペンテコステの日に起こった奇跡が現在でも繰り返されると信じていることによる。

ペンテコステ派で特に重要なのは「聖霊のバプテスマ」の教義である。聖霊のバプテスマは異言を語ったり、他の特別な賜物を体験したり、実践することによって証明される。ペンテコステ派は、神は今日でも奇跡を起こせるし実際に起こしているという信仰に基づいて、聖霊のバプテスマと呼ばれる神の力を体験しようとする。それによって彼らは異言を語り、預言を行い、病人を癒やし、奇跡を起こすための特別な賜物を授かる。異言は、それこそが救済にとって必要不可欠な条件であると主張する人々さえ存在するほど、中心的な役割を果たしているのである。ペンテコステ派のもう一つの注目すべき側面は礼拝の方法である。ペンテコステ派の礼拝では他のものと一緒に大音量の感情に訴える音楽と歌が用いられ、それらすべてが参加者を熱狂状態にするようになっていく。ペンテコステ派の教会ではしばしば「ミニストリー」と呼ばれる時間が設けられ、ここでは奇跡的なとりなしを求める祈りの一種である「按手」が行われる。つまり、ペンテコステ派は健康、繁栄、奇跡、神の直接体験を約束することで、世界中での教会成長をもたらす伝道活動の重要な要素となってきたのである。

ハーヴェイ・コックス (Cox, 一九九五年、八三頁) は、ペンテコステ派を「原初的語り (エクスタティックな言葉)、原初的信心 (神秘体験、トランス状態、癒し)、原初的希望 (より良い将来へのゆるぎない期待) の回復」を代表するものと見なしている。そして、ミラーとヤマモリが世界のペンテコステ派に関する研究で以下のように記述しているように (Miller and Yamamori, 二〇〇七年、二四〜二五頁)、シャーマニズムはペンテコステ派ときわめて類似した信仰と実践を備えているのである。

ペンテコステ派の成長に関するもう一つの説明とは、ペンテコステ派も霊的な世界を信じるため、シャーマニズムが頻繁に行われる伝統文化に属する人々がペンテコステ派に文化的に共鳴するということ

である。実際、ペンテコステ派とアニミズムには多くの機能的な類似点が見られる。たとえば、いずれの実践においても悪魔祓いが行われ、人々が癒され、個々人が霊に憑かれる。それゆえ、ペンテコステ派信者の世界観は、呪術的手段によって様々な精霊をなだめる必要があるという点を除けば、アニミズムの信者の世界観とそれほど違うものではない。実際、ペンテコステ派信者とアニミズム文化の人々の大きな違いは、前者が霊は一つだけ、つまり聖霊しかないと言断することなのである。

#### 韓国のシャーマニズム―韓国人の思考の宗教的基礎

韓国語では巫 (*mu*)、巫俗 (*musok*)、巫教 (*mugyo*) などと呼ばれる韓国のシャーマニズムには、様々な土着信仰や「民俗」に由来する宗教的な信念と実践が含まれている (Kim, T., 1981年; Jo, 一九八三年; Hogarth, 一九九九年; Kim, C., 二〇〇三年)。アジアの他のシャーマニズム信仰と同じように、韓国のシャーマニズムも基本的にはアニマティズム、アニミズム、祖先崇拜を含む自然の精霊への崇拜である。シャーマニズムの中心にあるのは、命ある生物にも命のない対象にもすべて祖先と同じように霊があり、これらの精霊が各個人の運命を左右する力を行使するという信仰である。シャーマニズムは多神教であり、きわめて多くの精霊を崇拜する。韓国のシャーマニズムにはおよそ二七〇種類の神々がおり、大きく言えば、それらは天上の精霊または神、地上の神、人格神、邪悪な神の四グループに分類される (Kim, 一九八一年, 二八五頁)。韓国のシャーマニズムに関わる精霊は一万八千種以上いると主張するシャーマンもおり、そのため韓国のシャーマンは時としてマンシン (*manshin*、「一万の精霊に仕える者」と呼

ばれこともある。韓国のシャーマニズムにおいて精霊として崇拜されるものは幅広く、韓国の歴史や伝説に出てくる著名な人物だけでなく、時代と共に他宗教の神々や霊も含めた多くの新しい精霊が信仰対象として取り込まれてきた (Moon, 一九八二年、二八頁)<sup>1)</sup>。

聖職者の役割が必ずしも決定的な特徴とはならない世界宗教とは対照的に、韓国のシャーマニズムにおいては、シャーマンの果たす役割がその核であり本質である。事実、韓国のシャーマニズムはシャーマンの役割と霊的体験に基づく信仰だといえる。韓国のシャーマンは次の四つの特徴的な役割や機能を果たす。つまり、一、人間と霊との仲介者の役割を果たす聖職者の機能、二、信者に神的存在の意思を伝達したり、精霊の助けを借りて人の幸不幸の変化を言いあてる予言者の機能、三、病を見きわめ邪悪な霊を体から追い払うことで患者を治療する治療の機能、そして、四、観衆を楽しませる歌や踊りを行うレクリエーションの機能である<sup>2)</sup>。

これらすべてのシャーマンの機能はシャーマンの儀式であるゲット (got) においてもっとも顕著に表れる。祈りの儀礼、癒しの儀礼、とりなしの儀礼という機能によって大きく分類されるシャーマンの儀礼は四つの段階から構成される。つまり、精霊へのアピール、精霊のための歌と踊り、精霊の意志を聞くこと、そして、精霊の送り出しである (Choi, 一九九四年、五六―六二頁)。歌、踊り、合唱、痙攣といったシャーマニズム特有の動作の機械的な繰り返しを通して、シャーマンは治療者、占い師、守護者、さまざまな儀礼の司式者としての役割をまっとうする。シャーマンはあらゆる出来事に対してそれぞれに適した儀礼を行うが、そうしたさまざまなシャーマニズム的儀礼は大きく二つの形態に分類できる。すなわち、一、不幸を引き起こす邪悪な精霊を追い払い幸運を導くギボクジェ (gibokje)、二、悪霊を追

い祓つて病を癒す病グット (*byeonggoot*)、三、死者が無事に他界へと旅立ちこの世で何も問題を起ささないように死者の魂を慰め清める送霊祭 (*songryeongje*) である (Ryu, 一九七三年、十六頁)。実際には儀礼実践は地域ごとにある程度異なるが、幸運をもたらすためのグットは常と同じように行われる。こうした民俗信仰のもっとも大きな特徴は、物質的願望の成就を一番に強調することであり、それゆえ祈福信仰 (文字通り「物質的祝福への信仰」を意味する) という形容詞型が一般に知られている。事実、シヤーマニズムのもっとも重要な目的は実際のニーズを満たすことである。人々は、長寿、健康、成功、富といった物質的願望の成就を願つてシヤーマンに儀礼を行つてもらうのである。

#### シヤーマニズムと韓国プロテスタントのペンテコステ化

遠い昔から、シヤーマニズムは韓国人の文化的実践だけでなく、その心的傾向と振る舞いにもっとも深い影響を長く及ぼしてきた。事実、シヤーマニズムの由緒ある信仰と儀礼が韓国人の宗教的・文化的な生活の基礎を形成してきた。外来宗教は、シヤーマニズムの要素を取り入れるか、もしくははその宗教と韓国シヤーマニズムとの間にかなり高い親和性がない限り、繁栄するどころか生き残ることさえできなかった。韓国の研究者の多くは、表面上は韓国には多くの宗教があるように見えるが、それらの核となる、ないし内容的に共通するただ一つの信仰があり、それこそシヤーマニズムなのだと論じている。

シヤーマニズムは韓国人の根本にあるエートスである。シヤーマニズムは〔中略〕一般大衆の基本



的な本能である。すべての韓国人の宗教的な観念や儀式はシャーマニズムの影響を受けており、いくつかの点においては融合もしている。韓国史において成功を収めたすべての宗教運動は強力なシャーマニズム的土台の上に成り立ってきた。そして、それは新しい宗教〔キリスト教〕にも間違いなく当てはまるのである (Palmer, 一九六七年、五頁)。

それ以前からあった他の宗教と同じように、韓国のキリスト教はシャーマンの伝統の多くの側面を取り込んだり、強調したりしてきた。とりわけ現世的願望の実現に関わる信念と実践においてはそうである。多くの研究者が、韓国でのキリスト教の成功の理由として、韓国キリスト教とシャーマニズムの親和性を挙げて言及している。たとえばリュ・ドンシク (Ryu, 一九七五年) は、韓国人キリスト教徒はシャーマニスティックな刻印に彩られた心象風景を通してキリスト教のメッセージを理解しており、聖書の物語やメッセージとシャーマンの伝統の中の語彙との間に類似性が見られることを論じている。シャーマニズムとプロテスタントイイズムとの結びつきは、とりわけペンテコステ派において際立っている。韓国のプロテスタント信者にとって鍵となる信仰と実践の多くがペンテコステ派的である。つまり、教派的結びつきとは関係なく、彼らの大多数は信仰治療を信じ、病者のために祈り、異言を奨励し、超自然的な奇跡を求める祈りを行う。このように韓国のプロテスタントにはまぎれもなくペンテコステ派的傾向があり、ペンテコステ派が韓国において超教派的・超教會的な現象になったことを示しているのである。チャイシク・チャン (Chung, 一九八二年、六二二頁) は次のように報告している。

韓国のすべての教会にペンテコステ派的な熱狂とさまざまな要素が見られる。さらに、異言と聖霊

の体験を強調するキリスト教ペンテコステ派の装いのすぐ下には、シャーマニズム的なトランス状態の特徴が簡単に見出せる。

さらにキム・ハーヴェイ・ユンソク (Kim, Y., 一九八七年、一五二頁) は次のように述べている。

自らの生活をほとんどコントロールできない人々のために、シャーマニズムは超自然的なものと同接交渉する道を提供したが、このような宗教行動の傾向は明らかに宣教師たちに有利であった。それは韓国人を原理主義的なプロテスタント・キリスト教であるペンテコステ派へと向かわせた。キリスト教における聖霊の概念は、霊の憑依というシャーマニズムの概念と矛盾しなかったのである。

ペンテコステ派における信仰治療と韓国シャーマニズムにおける癒し

シャーマニズムと、一般的には韓国プロテスタント、より具体的には韓国のペンテコステ派との間のもつとも顕著な共通点は、癒しに関する信念と実践がいずれの信仰にも見られることにある。韓国のシャーマンの役割として民衆が考えていたのと同じように、牧師にも、霊的世界と交信し、病を引き起こす悪霊を追い払う神秘的な力を持つことが期待された。シャーマンと同じように、牧師たちは催眠術を使い、(シャーマニズムの恍惚状態での歌と似た) 異言を用い、病者に憑依したと思われる悪霊を追い払う。もちろん、これらすべてが韓国シャーマニズムの癒しと悪霊祓いの儀礼の特徴と類似している。こ

うしたことから、信仰治療を行う牧師は「キリスト教に変装したシャーマン」であり、「シャーマンと同じように、教会での感情的・霊的な体験を通じた個人的祝福を約束する」といえる (Lee J., 一九九七年、一〇二頁)。礼拝やリバイバル・ミーティングの最中に癒しの儀礼を行うことで、韓国人牧師たちは、これら二つの場を実質的に病氣治しのための悪霊祓いが主に行われるシャーマニズムの儀礼へと変えてきた (Kim, G., 一九八一年を参照)。そのもつとも顕著な例が、世界最大の教会で百万人の信者を擁するペンテコステ派教会である、ヨイド・フルゴスベル・チャーチである。カリスマ牧師チョー・デイビッド・ヨンギが「不治の病」を抱えた人々に信仰治療を行い始めてから、この教会は著しい成長を始めた。実際、この教会の最初の十年間の目覚ましい成長の最大の要因は信仰治療であり、この間にテント作りの教会として静かに始まった同教会は一万五千名のメンバーを擁する教会へと発展した (Byun, 一九七二年、一一八〜一二二頁)<sup>③</sup>。ヨウ・ブローンは次のように書いている (Yoo, 一九八六年、七四頁)。

日曜日の朝の礼拝で彼〔チョー・デイビッド〕が果たす役割は、シャーマンやムードン (mudang) の役割とまったく同じであると思われる。唯一の違いは、シャーマンは精霊の名において不思議な業を行うのに対して、チョー師はイエスの名によって悪霊を追い払い、病を癒すことである。

同じように、コックスはキリスト教シャーマニズムの分かりやすい例としてチョー・ヨンギに言及している (Cox, 一九九五年、二二二〜二二四頁)。

膨大な量の韓国土着のシャーマニズムと悪魔憑きを自分たちの礼拝に取り込む韓国ペンテコステ派

的確な能力は〔中略〕あまりにも広範囲に及んでおり、いったい何が何を吸収したかもわからないという声も大きい。〔中略〕シャーマニズムを研究したことのある訪問者にとって、ヨイド・フルゴスペル・チャーチの礼拝は、一般に「シャーマニズム」として知られているものとはほとんど変わらない。

このように、シャーマニズムの病氣治しときわめて似た治癒礼拝は、韓国の多くの教会において日曜礼拝の「メインイベント」となってきたのである。<sup>4</sup>

病氣治しが日曜礼拝に限られないことも忘れてはならない。というのも、韓国の多くの教会はギドウォンとして知られる自分たちの祈りのセンターを運営しており、そこでは信仰治療の儀式が定期的に行われる。たとえば、ヨイド・フルゴスペル・チャーチの断食祈祷センターの主な目的・関心となるのは信仰治療であり、同センターの広告ではしばしば奇跡的な癒しについての証言が取り上げられる。加えて、精神的な病も含めた病者のための癒しの儀式を行う個別の祈祷センターも数多く存在している。さらに、復興会やリバイバル・ミーティングでは多くのリバイバリストが同じような儀礼を行い、病人を癒やし、悪霊を追い払う。このように癒しが強調されたため、病氣治しを専門とするリバイバリストや癒しの力を持つとされる牧師のいる教会が幅広い人気を得たのであった。

礼拝、祈祷会、リバイバル・ミーティングの中で繰り返し語られる信仰治療の実践とそれに関する逸話は韓国の聖職者にとって重要な「呼び物」となり、彼らは信仰治療をキリスト教に改宗することで得られる多くの現世的報酬の一つの証拠だと主張した。自分の病気を医学的に治療するための費用を捻出

できない人々には、「無料」で手ごろに思われる治療は間違いなく教会がもつ魅力の一つとして映った。このように、奇跡と癒しに対するキリスト教徒たちの関心と欲望が高まったことで、ペンテコステ派と非ペンテコステ派はほとんど区別できなくなつたのであつた。

韓国のプロテスタント信者の大多数は外見上は非ペンテコステ派である主流派に所属しているのだが、しかし彼らの宗教的傾向はカリスティックなペンテコステ派キリスト教に傾いている。コックス（Cox、一九九五年、二二二頁）が『Fire from Heaven』で記したように、韓国プロテスタントを論じる際には「伝統的な西洋の教派のラベルはほとんど意味をなさない」。コックス（Cox、一九九五年、二二五頁）はさらに「韓国のペンテコステ派は〔中略〕時代遅れな、あるいは、迷信的、とも言えるシャーマンの悪魔祓いの実践に戸惑う人々にとつて、全世界の中で最新の国であるアメリカからやってきた間違いなく最新の宗教の優雅な環境でシャーマニズムを行うための強力な原動力になつた」と付け加えている。

神の力による癒しに対する韓国のプロテスタント信者の信仰を強化するための方策の重要なものの一つとして、説教がある。多くの牧師たちは説教の中で、イエス・キリストによる奇跡的な癒しをまるでキリスト教のもつとも重要なメッセージであるように強調し奨励する。なぜなら、その説教によつて、神の全能性だけでなく、キリスト教が信者に実際的な利益をもたらさしうる宗教であることが示せるからである。神の愛と力の証明として示された聖書の中の奇跡的な癒しが、多くの韓国の聖職者によつて呪術的な力というレベルにまで高められるのである。たとえば、「重い皮膚病」（マタイ<sup>18</sup>章<sup>28</sup>節、ルカ<sup>17</sup>章<sup>12:14</sup>節）、「目が見えず口の利けない人」（マタイ<sup>12</sup>章<sup>22</sup>節）、「耳が聞こえず舌の回らない人」（マルコ<sup>7</sup>章<sup>32</sup>節）、「足の不自由な人」（マタイ<sup>15</sup>章<sup>30</sup>節、ルカ<sup>13</sup>章<sup>13</sup>節、ヨハネ

五章九節)、「ありとあらゆる病気や患い」(マタイ四章二十三節、九章三十五節)の癒しといったイエス・キリストの癒しの業に関する聖書の記述に繰り返し言及することで、韓国の牧師たちは神とキリスト教信仰における癒しの可能性が本物であることを説く。発作(マタイ一七章一五〜一八節)や、悲鳴をあげ激怒すること(ルカ九章三十七〜四十二節、マタイ八章二十八〜三十二節)、狂気(ルカ八章二十七〜三十六節)を引き起こす悪魔をイエスが追い払う聖書の記述は、改宗するかもしれない人々の宗教的境界観を魅了するのに役立つものとして利用されるのである。

韓国で教会が急速に成長した時期である一九七八年から一九八五年の間に十カ所の主要なプロテスタント教会で行われた千三百以上の説教の調査からも、同国の聖職者たちが信仰治療を一番に強調していることがうかがえる(Christian Academy, 一九八六年、二五〜四四頁)。この研究では、倫理的・教育的テーマはそれほど目立たないのに対して、信仰治療に関する話題が他のイエスの奇跡的な業とともに説教の目立つ位置を占めていることが明らかにされている。さらに同研究では、信仰治療を行う牧師が指導する教会が相対的に早い成長を遂げたことが明らかになった。たとえばイ・ジェ・バム(Lee, J.B., 一九八六年)によれば、二〇一〇年現在十八万人の信者を擁するソウル・スンラク教会の初期の成功は主任牧師キム・ギドンによる悪魔祓いと信仰治療のパフォーマンスによるものであるという。伝えられるところでは、キムは悪魔祓いを大規模に行い、一九六一年以降六名を死から甦らせ、四十万名の信者の悪霊を祓い、そのうち五九名の足の麻痺を癒したと信じられている。

説教の中でも信仰治療のテーマが突出していることは、癒しと関わる奇跡についての聖書の記述が韓国プロテスタントの間で広く信じられていることと関係している。たとえば、二〇〇四年のギャラップ

韓国世論調査 (Gallup Korea, 二〇〇四年、九五頁) によれば、プロテスタントの回答者の 83.6% が奇跡への信仰を表明している。同様の傾向は一九八四年、一九八九年、一九九七年の調査にも明らかである (Gallup Korea, 一九八四年、一九九〇年、一九九八年)。また、かなりの数のキリスト教徒が信仰治療を実際に体験していることにも注意する必要がある。たとえば一九九七年のギャラップ韓国の調査では、回答者の 41.8% が信仰治療を個人的に体験し、二〇〇四年には 33% が体験したと回答しているのである (Gallup Korea, 二〇〇四年、七四頁)。

#### 奇跡の賜物——物質的な祝福の強調

神の力による癒しとともにペンテコステ派の重要な要素となるのが、奇跡を求める祈りである。韓国の文脈では、奇跡を求める祈りは韓国人のシャーマニズム的傾向に合わせて再形成されてきた。すなわち、改宗するかもしれない人々に対してキリスト教の魅力を最大化するために、韓国の牧師はイエス・キリストを救世主と認めれば物質的願望が満たされると力説したのである。実際、韓国の牧師たちの多くが祈りの目的を奇跡の体験と結びつけ、人々の欲求を満たす上で祈りが神のとりなしを得るための重要な手段であると説いている (Lee, H., 一九九一年、一一一〜一二頁)<sup>5</sup>。こうして、教派的な結びつきとは無関係に、キリスト教が現世での繁栄と来世での霊的救済を与えてくれる宗教であるという信念が韓国のプロテスタント信者の間できわめて広く信じられるようになったのである。祈り、儀礼、呪術による現世的な欲求不満の解消を望んでシャーマニズムを長く受け入れてきた韓国人は、まったく同じ理由か

らキリスト教信仰を受容したと思われる。要するに、伝統的形態である呪術的信仰を、新しい信仰で置き換えたのである。

現世における神からの物質的祝福の強調の分かりやすい例として、ヨイド・フルゴスベル・チャーチの牧師チョー・デイビッド・ユンギの主なメッセージがある<sup>6</sup>。同教会において多くの聴衆を惹きつける（そして他の教会に真似されている）スローガンはキリストからの三重の祝福、すなわち健康、繁栄、救済である。これはヨハネの手紙三の第<sup>二</sup>節にある「愛する者よ、あなたのたましいが恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています」を取り入れたものである。チョーはこの一節を次のように解釈する。すなわち、「健康である」は自明であり、「すべての面で恵まれ」は現世の問題における成功と繁栄に言及したもので、「たましいが恵まれ」は救済を意味するといっているのである。「繁栄の神学」あるいは「繁栄の福音」を説くことで、チョーやその模倣者たちは、聖霊を受けることが次なる人生での救済という祝福を受けることに加え、現世での健康と物質的成功に恵まれることを意味するという考えを発展させたのであった<sup>7</sup>。この点について牧師たちの好む言葉の一つは祝福であり（韓国語の *chookbok* または *chookwon*）、それゆえ「*Yesu mitgo bokbalseu*」（イエス・キリストを信じ、物質的な祝福を受けなさい）が人気のある格言となっている。チョーの神学は多くの反響を呼んだが、チャールズ・エリオットが表明したものがもっとも典型的である（Elliott, 一九八九年、三二二頁）。

これまで論じてきたように、快樂、すなわち物質的成功による困窮の拒否こそがこの信仰の本質であることを私は理解し始めた。チョー自身、それについて全く明確に述べている。「私たちは人々の



要求を満たします」とチョーは言った。「私たちは彼らが望むもの、彼らが探し求めるものを与えます」と。人々が探し求めるものは彼らの体験や期待に影響され形づくられる。体験とは彼らの日常生活である。期待とはシャーマンが古くから果たしてきた役割に関する意識的・無意識的な記憶である。人生は残酷で、冷たく、恐ろしい恨 (Hate) に満たされている。シャーマンは、カタルシス、遊び、祝福を与えた。チョーと彼の多くの模倣者たちは感情的な解放、共感、そして祝福を与えているのである。

多くの韓国の牧師たちは、三重の祝福に加えて、マタイによる福音書にあるキリストの八つの祝福（五章三〜十節）も強調する。特に物質的な含みのある一節、すなわち「柔和な人々は、幸いである、その人たちは地を受け継ぐ」（文字通り土地を所有できると解釈される）と、「義に飢え渇く人々は、幸いである、その人たちは満たされる」が強調される (Park, 一九八二年、三八〜三九頁)。彼らはさらに、現世での成功が神の祝福のしるしであるとする一方で、病気、貧困、工作上的失敗、その他あらゆる不幸も要するに罪と霊的な不純によるものであるとし、それらを打ち破る唯一の方法が健康と繁栄に導く神への信仰であると説く。

このような人々の物質的願望をかなえるという神の恩寵の強調はとりわけ説教において顕著である。ジユン・ジェヨン (Jung, 1994, 74) は韓国の多くの教会に見られる説教の例を挙げている。

私たちの父は豊かです。彼はあらゆることを可能にします。私たちが求めるならば、彼は私たちに餅を与えます。私たちが求めるならば、彼は私たちに魚を与えます。すべてを与えることのできる

私たちの父へのあなたたちの信仰に、あなたたちが心から感謝することを私は望みます。

またキム・デゴン (Kim, D., 一九八三年) は韓国の主だった三十人の牧師の説教を集めて分析を行い、神を救世主と認めることによる物質的な祝福というテーマが彼らの説教において最重要視され、聖書における奇跡の例が特に注目されていることを明らかにした。この点に関してもっとも人気がある聖句は次のものである。

愛する者よ、あなたのたましいが恵まれているように、あなたがすべての面で恵まれ、健康であるようにと祈っています。(ヨハネの第三の手紙一章二節)

過去のあなたは小さなものであったが未来のあなたは非常に大きくなるであろう。(ヨブ記八章七節)

求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。(マタイ七章七節)

またヤベツがイスラエルの神に、「どうかわたしを祝福して、わたしの領土を広げ、御手がわたしと共にあって災いからわたしを守り、苦しみを遠ざけてください」と祈ると、神はこの求めを聞き入れられた。(歴代誌上四章十節)

多くの韓国人キリスト教徒は、これらの聖句のうちいずれか一つをすらすらと暗誦できる。また、これらの聖句は説教において人気があるだけでなく、キリスト教徒の家庭、店、レストランなどで壁に掛

けられていたりもする。聖書の一節を写した壁掛けは一般に書道作品として書かれ、キリスト教徒の家庭やキリスト教徒が所有する企業の多くで見受けられる。もちろん、東アジアの書道作品を飾る習慣は名言を尊重するものとして中国や日本と同じように韓国でも長く人気があり、キリスト教徒も神の言葉を尊重するために大切なメッセージを飾るといふこの方法を用いてきたのである。

奇跡を求めて祈ることが神による物質的願望の成就と直結するという事実は、聖書に書かれた奇跡と神の全能性に対するキリスト教徒の深い理解と受容からも証明される。韓国人キリスト教徒に関する調査は、奇跡の存在とそれが今日でも再現されうるといふ彼らの強い信仰を繰り返し明らかにしている。たとえばキム・ジョンギラ (Kim, J., 一九八二年、七五頁) は、韓国中の教会から抽出した一二三一名のプロテスタント信者に関する調査によつて、回答者の84.5%が聖書の奇跡の記述を信じており、さらに99.4%という圧倒的多数が奇跡をはつきりと感じていることを明らかにしている。このように韓国のプロテスタントのほとんどは、奇跡を起こし物質的願望をかなえる救世主という神のイメージを心から受け入れている。そして、奇跡に関する聖書の記述と奇跡は現在でも再現されうるといふ考えによつて、現世と来世でのより良い生を約束するキリスト教を心から受け入れた何百万人もの改宗者が生まれたのである。

韓国の聖職者によるこうした物質的報酬の強調は、同じくらい熱狂的な韓国人プロテスタント信者の現世志向と対応している。たとえば二〇〇四年のギャラップ韓国世論調査 (Gallup Korea, 二〇〇四年、三五頁) によれば、キリスト教徒の回答者の56.7%が天国や楽園は来世ではなく現世において見出せるとしている。また彼らは現世的価値観を宗教的・教義的な価値観よりも重要なものだと考えている。人

生の最重要事項として、回答者の32.2%が健康を、29.5%が金銭と富を選んだのに対して、信頼、愛、信仰、誠実さ、正直さをもっとも価値あるものとしたのは、それぞれわずか8.5%、5.8%、4.5%、3.6%、2.5%であった (Gallup Korea, 二〇〇四年、二三五〜二三九頁)。教会の成長の頂点である一九八一年に行われたヨイド・フルゴスペル・チャーチの信者の調査においても、信者間で現世志向が優位なことが明らかであった。キリスト教を信仰する動機については、回答者の37.6%は物質的な祝福を改宗の主要な動機と答え、30.6%が癒しと答えており (Kim, D., 一九八一年、九四頁)、救済 (16.9%)、永遠の命 (7%) といった宗教的な動機を挙げた回答者よりも圧倒的に多かった。同調査においては、信者の大多数がプロテスタントに改宗した結果、実際に人生がより豊かで裕福なものになったとしており、たとえば回答者の41.2%が教会出席によって生活レベルが向上したと述べているのである。イ・ジュン・ヨンは次のように分析している (Lee, Y., 一九九七年、八〇頁)。

〔韓国人は〕現世における祝福を社会正義や倫理的な生活ではなく、個人的・物質的な報酬として理解している。さらに彼らは天国における祝福も現世での祝福の霊的なあらわれであると感じている。こうした種類の解釈は、韓国の文化、特にシャーマニズム的な考え方に由来しているのである。

祈りの成就に関する証言を集めた一連の書籍からは、韓国人キリスト教徒が物質的願望の充足と祈りの成就に最大の関心を寄せる様子が見える。そうした書籍の中でももっともよく知られた二冊が基督教放送ネットワーク (CBS) の1980年代に放送されたラジオ番組「Suaengghasoseo」〔それを新しいものにしてください〕に送られてきた手紙から選ばれた証言コレクションである (Ko, 一九八二年、を参

照)。同書には、叶えられた祈りや信仰治療についての典型的な語りが収められている。また、少なくともその初期においては、キリスト教徒の証言の公表にはほぼ特化した月刊誌も存在している。一九六七年に最初に刊行された『Shinangye』(「信仰の世界」)はペンテコステ派のもつとも知られた月刊誌で、二〇〇八年に『Plusinsaeng』(「プラスの人生」)と名前を変え、奇跡的な癒しや貧困を含めた困難の克服についての多くの証言を公表してきた(Park M., 二〇〇四年)。

#### 異言とペンテコステ派の礼拝スタイル

ペンテコステ派のもつとも重要な面の一つである異言は、声と言葉による霊的表現という点で、シャーマニズムの恍惚状態での詠唱とおそらく類似しているだろう。上述したように、シャーマンが霊と交信する唯一の方法が霊の憑依または *shindeullim* (シャーマン自身が霊に憑依されていることを感じる状態) である。シャーマンが霊からのメッセージを口走るのはこうした恍惚状態においてであるが、異言と同じようにしばしば意味不明で、シャーマン自身の声とはまったく異なる調子で発されることがある。霊の憑依は基本的にはシャーマンに限られるが、その体験は霊の「力」を通じて予言や悪魔祓いや病氣治しを行うことができる限られた人に与えられた特別な賜物であると見なされるため、見ている者に畏敬の念を持たせるのである。

二〇〇六年に行われたキリスト教徒への調査によれば、回答者の5%が異言を体験している(国民日報、二〇〇七年)。韓国人キリスト教徒が異言を好むのは、ひとつには韓国人がシャーマニズムの痕跡が

見られる体験に価値を置くためである。たとえば、聖霊を受けることは「聖霊体験」と呼ばれ、シャーマンの霊の憑依やトランス状態と酷似しているが、それこそが異言、予知、癒しを可能にする手段であると信じる韓国人キリスト教徒の高い評価を受けている。種々の調査が、一般的にかなりの割合の韓国人キリスト教徒が個人的に聖霊を体験していることを明らかにしている。たとえば、韓国人キリスト教徒に関する二〇〇一年の調査によれば、回答者の $34\%$ が聖霊を経験していると表明している（国民日報、二〇〇一年）。同じように、現代思想研究所（一九八二年、七八頁）の一九八二年の調査では、回答者の $55\%$ が聖霊を体験したと表明したことが明らかにされている。以上から分かるように、これらの高い数値が意味しているのは、聖霊を体験することによって異言での語りが可能となり、またそれによって自分たちが神からの祝福を受けられるということを信じる韓国人キリスト教徒の傾向である。実際、韓国人キリスト教徒は、目前にせまった神からの物質的祝福の必要条件や証拠として、こうした聖霊の体験と異言を結びつける傾向にある。聖霊と異言の体験は、神から物質的に祝福を受ける候補者に与えられるバッジのようなものである。さらに韓国人キリスト教徒は、シャーマンが霊からのメッセージや要求を理解しようとするのと同じように、異言の理解や解釈は聖書の教えに即したことであり、自分自身の体験を通じて確認できると信じている。異言は韓国人キリスト教徒の間で非常に人気があるものとなったが、それは他でもなく、異言は神秘的で聖なる言葉であり、誰にも理解できない言葉で自分たちの悲しみを表し、苦悩を爆発させ、神とコミュニケーションするための秘密のチャンネルであると感じられるからである。数々の証言が明らかにしているように、韓国人キリスト教徒は、異言を通してカタルシスを体験し、心の平安を得る。そして彼らは信仰への自信と確信を深め、信仰に対しますます熱

心で積極的になるのである (Yi, G., 一九七〇年, 六五〜七〇頁)。

シャーマニズムとペンテコステ派が類似するもう一つの点は、後者の礼拝スタイルの中に見出せる。すでに述べたように、シャーマニズムの儀礼の基本的表現はグットである。シャーマンはムグ (*mugun*) と呼ばれる楽器を使い、非常に感情的で狂騒的な雰囲気を作るために他にも太鼓、鏡、鐘、扇、剣、銅鑼を用いる。グットは必ず精霊のための激しい歌と踊りから成る。儀礼はきわめて厳肅な雰囲気と共に始まるが、シャーマンは熱狂的な踊りと音楽で精霊に訴えかけ、精霊を楽しませ、精霊を送り出す。さらに、巫ガム (*moogam*) と呼ばれる部分があり、そこでは儀礼の依頼者がシャーマンのコスチュームを着て踊る。西アフリカの作家マリドマ・パトリス・ソメの言ったように、これらからは、シャーマンの儀礼の主要な特徴が「精霊との遊戯」であることが分かる。

多くの韓国の教会は、教派組織とは無関係に単立の教会として急激に増えている教会も含めて、礼拝で激しい音楽と歌を用いており、それはグットに極めて似ている。こうした場面で音楽が果たす役割は、シャーマニズムでもペンテコステ派でも同じように聴衆を一種の催眠状態や変性意識状態へと導くというものであり、注目に値するものである (Hogarth, 一九九九年, 一三三頁)。さらに礼拝の間、参加者たちは両手を挙げ、歓喜に手を打ち鳴らし、祈るために祭壇に行き、互いに抱き合い、泣きささえる。また聖別し合い、力づけ合い、癒し合うために、互いに手をかざす。こうした恍惚状態での神とのコミュニケーションの中で、礼拝の参加者たちはシャーマンの降霊会のように興奮し、激昂し、高揚させられる。また、レクリエーション的效果が生じる点でも韓国のシャーマニズムに似ている。こうした礼拝は、厳しく管理された毎日の生活パターンからの逸脱と解放もたらす点でレクリエーション的なのである。礼

拜の参加者たちはしばしば高揚感や靈的に興奮した体験、あるいは感情を刺激する礼拝がもたらす熱狂によって、<sup>レ</sup>憑依<sup>レ</sup>されたことを告白するが、このような興奮ともなう言動もシャーマンがもたらすエクスタシーと類似している (Lee, H., 一九九一年, 九八〜一〇四頁)。そのためシャーマニズムの儀礼と同じように、毎週の礼拝やリバイバル・ミーティングのいずれも、しばしば<sup>レ</sup>靈的な沸騰状態<sup>レ</sup>の形をとり、すべての参加者がカタルシスをとまなう発散状態に没入する。このようにして、鬱積したすべての欲求不満が共同儀礼の場で爆発的に解消され、参加者たちは身体的、心理的、感情的に解き放たれるのである。

## 結論

シャーマニズム信仰とペンテコステ派の信念・実践の類似性は、一方で、一般的にはプロテスタントの、より具体的にはペンテコステ派の人気の大きな理由の一つとなってきた。こうした両者の親和性によって、非ペンテコステ派である主流派の多くの教会がペンテコステ派の信仰スタイルを吸収し、シャーマニズムと酷似した聖靈の体験、異言、信仰治療、奇跡を求める祈りを強調することが可能になった。このような各個人の生活の中での聖靈体験にもとづく経験志向の運動は、大衆の宗教的想像力を大いに刺激するものだった。シャーマンの悪霊祓いや癒しの力を培った文化の中で育った多くの韓国人は、悪魔祓いや癒しといった聖書の中の超自然的な要素に当惑したり驚いたりはしなかった。多くの韓国人がプロテスタントに惹きつけられたのは、まさにキリスト教が韓国の伝統的な信仰システムの継続あるいは



延長として提示され、同じように現世での充足を与えるか、少なくともそれを約束したからである。韓国人にとって、キリスト教は現代的・西洋的な宗教の装いの下に隠された自分たちの伝統的な宗教形態に他ならなかった。つまり、キリスト教が提供したものの多くが、その目的と手段においてシャーマニズムの信仰と儀礼と類似していたからなのである。

このように本稿は、主に新しい教義と韓国人の価値観の矛盾の最小化と、新しい信仰と韓国の伝統的宗教の間の対立の可能性の縮小によって、韓国のキリスト教の目覚ましい成長がもたらされたとする点で、グレーソンの移植論と一致している (Grayson, 一九八五年)。さらに本研究は、キリスト教は異なる文化的特色を各地域の中に組み込むことで宣教を大いに成功させてきたとするキリスト教徒の改宗に関する比較文化論の先行研究とも矛盾しない (Saunders, 一九八八年、Badone, 一九九〇年、Hehner, 一九九三年を参照)。キリスト教のシャーマニズム化が韓国で目覚ましい成功を遂げたことに疑いはなく、このことは、なぜ新しい信仰を熱心に取り込む社会がある一方で、新しい信仰に抵抗を見せる社会もあるのかという問いへの一つの回答になりうると思われる。

こうした韓国の状況は、あらゆる信仰の中から説得力の有無によって好みのものを選ぶという宗教的信仰の変化として改宗を説明する「主知主義的」アプローチとして知られる改宗研究の有効性に対して疑問を投げかける (Horton, 一九七一年; Skorupski, 一九七六年, 一八三〜二〇四頁)。さらに、改宗は個人への信念、アイデンティティ、考え方に変化をもたらすとする見解についても疑義が呈される (Snow and Machalek, 一九八四年)。韓国の事例では、信仰や価値観の大きな変化なしで改宗が起こったことが示されている。改宗にかかわる唯一の大きな変化はアイデンティティの移行であったと思われる。外来

信仰を受容する際に、韓国人プロテスタントは自分たちの伝統的宗教の信仰や習慣のほとんど放棄する必要がなかった。というのも、韓国人の宗教的価値観の核が新しい宗教に取り込まれていたためである。実際、韓国のプロテスタント・キリスト教への改宗においては古い信仰の放棄は求められなかった。プロテスタントの信念と実践を土着文化の枠組の中で再構成することで、韓国のプロテスタントは新たな信仰の中で自分たちの伝統的宗教文化の信仰と実践を保ち続けることに成功したのである。このように、韓国の事例は、世界宗教は伝統文化と伝統社会の犠牲の上に拡大したとする主張を否定する。韓国で見られるのはその逆で、古い信仰と調和しながら発展するキリスト教である。仏教のような韓国に根づいた他の世界宗教と同じように、キリスト教は、韓国の民衆に受け入れられるために、韓国の伝統的宗教文化の要素と折り合いをつけ、それを吸収したのである。

#### 参考文献

- ANDERSON, Allan  
 2004 *An Introduction to Pentecostalism*. Cambridge: Cambridge University Press.
- BADONE, Ellene, ed.  
 1990 *Religious Orthodoxy and Popular Faith in European Society*. Princeton: Princeton University Press.
- BRUMHOFFER, Edith L.  
 1993 *Restoring the Faith: The Assemblies of God, Pentecostalism, and American Culture*. Champagne: University of Illinois Press.

- BYUN, Jongho, ed.  
 1972 *Hanguk wi osunjeolundongsa* (History of Pentecostalism in Korea). Seoul: Shinsaenggwan.
- CHANG, Yunsik  
 1982 Shamanism as Folk Existentialism. In Earl H. Phillips and EuyoungYu, eds., *Religions in Korea: Beliefs and Cultural Values*, 25–41. Los Angeles: Centre for American-Korean and Korean Studies, California State University.
- CHOI, Gilsung  
 1994 *Hangukmusok wi ilhae* (Understanding Korean shamanism). Seoul: Yejeonsa.
- CHRISTIAN ACADEMY  
 1986 The Content of Sermons and Its Relation to Church Growth. In the Christian Academy, ed., *Gahyuk shinhak gwa sulgyoyeongu* (A Study of the Reform Theology and Sermons), 25–44. Seoul: Gukjesinhakhyeongso.
- CHRISTIAN INSTITUTE FOR THE STUDY OF JUSTICE AND DEVELOPMENT  
 1982 *Hangukgyohoe 100nyun jonghapjoseoyeongu-Bogoseo* (A Study of 100 Years of Korean Christianity: A Report). Seoul: Hangukgidokgyosahoemunjeyeongwon.
- CHUNG, Chaisik  
 1982 Korea: The Continuing Syncretism. In Carlo Caldarol, ed., *Religion and Societies: Asia and the Middle East*, 607–28. Amsterdam: Mouton.
- COX, Harvey  
 1995 *Fire from Heaven: The Rise of Pentecostal Spirituality and the Reshaping of Religion in the Twenty-first Century*. Reading, Mass.: Addison-Wesley.
- ELLIOT, Charles  
 1989 *Sword and Spirit*. London: BBC Books.
- FRESTON, Paul  
 2001 *Evangelicals and Politics in Asia, Africa and Latin America*. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

GALLUP KOREA

1984, 1990, 1998, 2004 *Hangukin ui jonggyo wa jonggyouishik* (Religion and Religious Consciousness of Koreans). Seoul: Hangukgallupjosaeyonguso.

GRAYSON, James H.

1985 *Early Buddhism and Christianity in Korea*. Leiden, Netherlands: E. J. Brill.

1995 Elements of Protestant Accommodation to Korean Religious Culture: A Personal Ethnographic Perspective.

*Missiology: An International Review* 23(1): 43-59.

HAN, Wansang

1979 Hangukyohoe ui yangjeokseongjang gwa gyoindeul ui gachigwan: Yeonglakyohoe leul jungshim euro (The Quantitative Growth of the Korean Church and Christians' Values: A Focus on Yeonglak Church). Sungjeondae haknonmunjip 7(1): 363-82.

HARVEY, Youngsook Kim

1987 The Korean Shaman and the Deaconess: Sisters in Different Guises. In Laurel Kendall and Griffin Dix, eds., *Religion and Ritual in Korean Society*, 149-70. Berkeley: Institute of East Asian Studies, University of California.

HEFNER, Robert, ed.

1993 *Conversion to Christianity: Historical and Anthropological Perspectives on a Great Transformation*. Berkeley: University of California Press.

HOGARTH, Hyun-Key Kim

1999. Korean Shamanism and Cultural Nationalism. Seoul: Jimoon dang.

HORTON, Robin

1971 African Conversion. *Africa* 61(2): 91-112.

HYUNDAESAHOEYONGUSO

1982 *Hangukyohoe seongjang gwa shinangyangtae e gwanhan josayeongu* (A Study on the Growth of the Korean Church

- and the Patterns of Faith). Seoul: Hyundaesaheoyeonguso.
- Jo, Heungyun  
1983 *Hanguk ui mu* (Shamanism of Korea). Seoul: Jungumsa.
- JUNG, Jaeyoung  
1994 *Sesolhwa wa hangukgyohoe ui seongjang* (Secularization and Church Growth in Korea). Hyeonsangwalsihk 18(4): 61–86.
- KIM, Chongho. 2003. Korean Shamanism: The Cultural Paradox. Burlington, VT: Ashgate.
- Kim, Daegon  
1983 *Hangukgyohoe sulgyo e natanan guyaksungseo e gwanhan yeongu* (A Study of the Sermons of the Korean Church: Their Interpretation of the Old Testament). Unpublished M.A. Thesis. Hanshin Theological College.
- KIM, Dukwhan  
1981 *Cho Yonggi gemuneun gwayeon idan inga* (Is Yonggi Cho Heresy?). Seoul: Hanguk Gwanggo Gaebalwon.
- KIM, Gwangil  
1981 *Gidokgyo chibyeong hyeonsang e gwanhan jeongshinuhakjiek josayeongu* (A Psychological Analysis of the Phenomenon of Faith Healing in Christianity). In Kwangsun Suh, ed., *Hangukgyohoe seongryeongundong ui hyeonsang gwa gwjo*, 233–96. Seoul: Daehwachuipansa.
- KIM, Joonggi, Jinhong JUNG and Haksup JUNG  
1982 *Hangukgyohoe sungjang gwa shintang yungtae e gwanhan josayeongu* (A Study of the Korean Church Growth and Faith). Seoul: Hyundaesaheoyeonguso.
- KIM, Samyong  
1983 *Hanguk miruk shinang ui yeongu* (Study of Miruk Faith in Korea). Seoul: Donghwa Pub.
- KIM, Tae-Gon  
1981 *Hanguk musokyeongu* (A Study of Korean Shamanism). Seoul: Jipmundang.

- Ko, Eun-a, ed.
- 1982 *Saeroppe hasosseo* (Please Make It New), Vol. 1. Seoul: Hongsungsa.
- 1988 *Saeroppe hasosseo* (Please Make It New), Vol. 2. Seoul: Hongsungsa.
- Kukminilbo* 国民日報
- 2001 Hangukgyohoe seongdo 77% “seongryeong cheheom” (77% of Korean Christians have experienced the Holy Spirit). August 2.
- 2007 Gidokindeul gidosisan jeomjeom juleodeunda (Time devoted to praying is declining). June 12.
- KOREA WORLD MISSIONS ASSOCIATION
- 2009 *2008seongyosa pasong lyeonhwang* (The Facts and Figures of Dispatched Missionaries in 2008). Unpublished report. Seoul: Korea World Missions Association.
- LEE, Hungu
- 1991 *Hanguk jeontong jonggyo wa hangukgyohoe* (Traditional Religions of Korea and the Korean Church). Seoul: Yunhapsungyohoe.
- LEE, Jae Bum
- 1986 Pentecostal Type Distinctives and Korean Protestant Church Growth. PhD dissertation, Fuller Theological Seminary, Pasadena, California.
- LEE, Jung Young, ed.
- 1997 *Korean Preaching: An Interpretation*. Nashville: Abingdon Press.
- MILLER, Donald E., and Tetsunao Yamamori
- 2007 *Global Pentecostalism: The New Face of Christian Social Engagement*. Berkeley, CA: University of California Press.
- MOON, Sanghae
- 1982 Shamanism in Korea. In Shinyong Chun, ed., *Korean Thought*, 17–35. Seoul: Sisayongosa.

NATIONAL STATISTICAL OFFICE

1987, 1997, 2006 *Igu mit julaek sensus* (National Census of Population and Housing). Seoul: National Statistical Office.

PALMER, Spencer J.

1967 *Korea and Christianity*. Seoul: Royal Asiatic Society/Hollym.

PARK, Myung Soo

2004 Korean Pentecostal Spirituality as Manifested in the Testimonies of Believers of the Yoido Full Gospel Church. *Asian Journal of Pentecostal Studies* 7(1): 35-56.

PARK, Sungbok

1982 Hanguk gyohoe seongjang e gwanhan yeongu (A Study of the Growth of the Korean Church). Unpublished M.A. thesis. Department of Education, Yonsei University.

Ryu, Dongshik

1973 The World of "Kur" and Korean Optimism. *Korea Journal* 13(8): 13-20.

1975 *Hangukmyungyo ui yeoksa wa gujo* (The History and Structure of Korean Shamanism). Seoul: Yonsei University Press.

SAUNDERS, George R., ed.

1988 *Culture and Christianity: The Dialectics of Transformation*. Westport, Conn.: Greenwood Press.

SKORUPSKI, John

1976 *Symbol and Theory: A Philosophical Study of Theories of Religion in Social Anthropology*. Cambridge: Cambridge University Press.

SNOW, David A., and Richard MACHALEK

1984 The Sociology of Conversion. *Annual Review of Sociology* 10: 167-90.

STALSER, Sturla J.

2006 *Spirits of Globalization: The Growth of Pentecostalism and Experiential Spiritualities in a Global Age*. London: SCM Press.

- Suh, Kwang-sum  
1983 *Theology, Ideology, and Culture*. Geneva: World Student Christian Federation.
- SYMAN, Vinson  
1997 *The Holiness-Pentecostal Tradition: Charismatic Movements in the Twentieth Century*. Grand Rapids, Michigan: Wm. B. Eerdmans Publishing Company.
- Yi, Cheongsu  
1973 *Sunbokemyonghoe ui shinyuhyeonsang yeongu (An Analysis of Healing at Full Gospel Church)*. Unpublished M.A. thesis, Graduate School of Education, Yonsei University.
- Yi, Gwangsu  
1970 *Bangeonhyeonsang yeongu (A Research on the Speaking in Tongues Phenomenon)*. Unpublished M.A. thesis, Graduate School of Education, Yonsei University.
- Yoo, Boo-woong  
1986 *Response to Korean Shamanism by the Pentecostal Church*. *International Review of Mission* 75(Issue No. 297): 70-81.

## 註

本稿の一部は今後 *Korea Journal* 二〇一三年号に掲載予定である。キム・アンドリュー・ユンギは高麗大学校国際研究学部教授。主な関心は宗教・文化・民族学、社会変動、比較社会学である。彼の論文は *Social Indicators Research*、*Asian Survey*、*Journal of Contemporary Asia*、*Social Compass*、*Korea Observer*、*Sociology of Religion*、*Social History*、*Review of Religious Research*、*Korea Journal* 等に掲載されている。現在二冊の執筆に携わっている。一つは韓国の「キリスト教化」を引き起こした宗教文化的・社会的・政治的ファクターの分析である。もう一つは現代韓国社会の形成過程における急速な産業化・近代化・グローバル化が与えたインパクトの分析である。



- ① 一部のシャーマンはアメリカのダグラス・マッカーサー元帥の霊さえ崇拜する。朝鮮戦争（一九五〇年―一九五三年）の初期段階で韓国を北朝鮮の支配から解放したため、マッカーサーは軍事上の英雄と考えられている。韓国にはシャーマンになるプロセスによって分類される3種類のシャーマンがいる。一、親から職業として受け継ぐ世襲シャーマン（セスツプムダング）、二、「巫病」や「精霊憑き」（神病または神ドリム）を経験する憑きものシャーマン（降神巫、別名ネリムムダング）、三、生計を立てるために職業としてシャーマニズムを学んだ訓練されたシャーマンである（Moon, 一九八二年、二二頁）。シャーマンの数はキリスト教の聖職者と仏教の僧侶の合計よりも多く、およそ十五万人と考えられている。韓国のシャーマンの大部分は女性であり、顧客の大部分も女性である。
- ② イ・チョンミン(氏、一九七三年)の教会の信者に関する調査によれば、回答者の56%が最初に教会を訪れた理由を「癒されたい」ためとしている。
- ③ 悪霊は別の種類の不幸をも引き起こすと信じられているので、健康以外の欲求を満たすタイプの治療もある。たとえば、失業が悪魔に起因するものとみなされ、失業者に対する癒しの儀礼が行われることがある。また、娘しかおらず息子がほしいと望む人々に対しては、女性に娘しか与えない悪霊を追い払うための儀式が行われる。
- ④ こうした現世志向は広く浸透しており、そのため、一部の韓国の教会では、教会名にさえも豊かさ（たとえば「Plenty教会」）、祝福（たとえば「Blessed教会」）、幸せ、希望といった言葉が用いられてきた。
- ⑤ 同教会の構造が分からない限り、この信者数の多さは理解することはできない。同教会は、ソウルとその都市域のいたるところに位置する多くの「衛星教会」から成り立っているのである。
- ⑥ チョウは常に批判にさらされている。韓国内外の著名なキリスト教指導者の多くがチョウの教えに対する懸念を表明しており、チョウらがカルト的であり、キリスト教と韓国シャーマニズムとチョウ自身の考えを混同させているとしている。